

# AG-001: 豚・ブロイラーへの低タンパク配合飼料の給餌

## 【削減方法】

- 慣用飼料に代えて低タンパク配合飼料を給餌することにより、排せつ物管理からのN<sub>2</sub>O排出量を抑制する。

## 【適用条件】

- ① プロジェクト実施前において、慣用飼料給餌量が、豚は「日本飼養標準」の1.2倍、ブロイラーは品種ごとに定められた「栄養推奨値」の1.1倍を上回らないこと。
- ② プロジェクト実施後において、慣用飼料に比べてCP含有率が1～3%低減された低タンパク配合飼料を給餌し、豚はその給餌量が「日本飼養標準」の1.2倍、ブロイラーは品種毎に定められた「栄養推奨値」の1.1倍を上回らないこと。
- ③ 排せつ物の処理方法は「貯留、天日乾燥、火力乾燥、強制発酵、堆積発酵、焼却、浄化」のいずれかであること。
- ④ 低タンパク配合飼料を給餌する家畜は肥育豚・ブロイラーであること。
- ⑤ ブロイラーへの給餌について、プロジェクト実施後の1日1羽あたりのCPの給餌量が、プロジェクト前より増加しないこと。

## 【ベースライン 排出量の考え方】

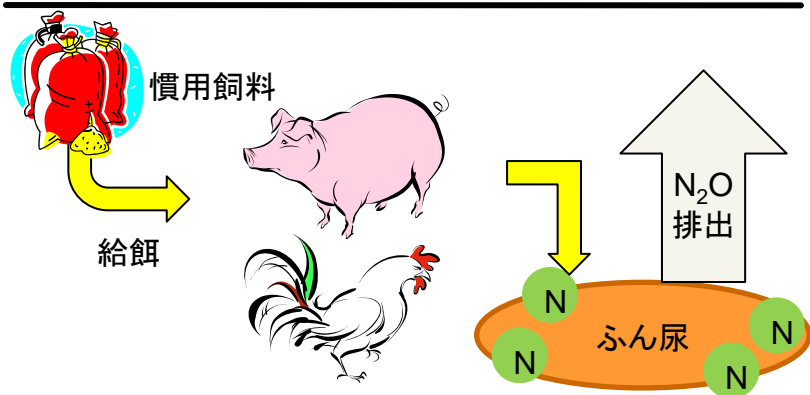
- 肥育豚・ブロイラーを低タンパク配合飼料ではなく、慣用飼料で使用した場合に想定される温室効果ガス排出量

## 【主なモニタリング項目】

- 排せつ物の管理区分
- 肥育豚の平均飼養頭数及び飼養日数、ブロイラーの平均飼養羽数及び飼養日数
- 慣用飼料及び低タンパク配合飼料のCP含有率(%)
- ブロイラーへのプロジェクト実施前後の1日1羽当たりの給餌量(重量)

## 【方法論のイメージ】

### ベースライン



### プロジェクト実施後

